

あじさい「きらきら星」の安定生産技術

1. 試験のねらい

「きらきら星」は、赤系と青系の両方の花色を発色させることが可能な品種であるが、それぞれの花色を安定的に発色させるための用土条件の確立が求められている。そこで、発色安定のための用土配合条件を検討する。また、節間が伸長しやすい特性があることから、鉢物用あじさいの規格である株の高さを40cm程度にする育苗時の側枝伸長抑制技術および開花枝のわい化剤処理による節間伸長抑制技術を検討する。

2. 試験方法

(1) 試験1 花色別用土の配合割合の検討

定植用土の配合割合について、赤系発色用は、ピートモス：クリプトモス：パーライトが体積比で2：1：1の配合を対照に、ピートモスとクリプトモスの比率を1または2とし、開花時の花色について調査した。また、青系発色用は、赤玉土：ピートモス：腐葉土が2：1：1の配合を対照に、赤玉土の比率を3または4とし、開花時の花色について調査した。

(2) 試験2 育苗時の側枝伸長抑制のための摘心時期の検討

平成22年5月20日に挿し木、6月23日に鉢上げした2.5号ポット苗の最終摘心日を8月11日、8月21日、8月31日および9月10日とし、発生した側枝の伸長が停止した落葉時に開花母枝長を測定した。また、苗を5号ポットに定植し、開花させた株の高さを調査した。

(3) 試験3 開花枝の節間伸長抑制のためのわい化剤処理の検討

4号ポットに定植後の15日目（展開葉2対時）と30日目（展開葉3対時）の2回、ダミノジッド剤を濃度4,000ppm、8,000ppmおよび無処理の組み合わせで葉面散布処理を行い、開花株の高さを調査した。

3. 試験結果および考察

(1) 赤系発色用の用土は、パーライト1に対し、ピートモスおよびクリプトモスが各1～2のいずれの配合も、花色の赤味を表す a^* 値が対照と同様に40程度のピンク色の発色を示し、赤系色の発色に適していると考えられた（表-1、図-1）。また、青系発色用の用土は、ピートモスおよび腐葉土の各1に対し、赤玉土の比率が対照の2より高い4の方が、花色の青味が強く適していると考えられた（表-2、図-1）。

(2) 育苗時の側枝は、最終摘心時期を8月下旬とすることで、開花母枝長を約3.5cmに抑制でき、開花時の株の高さも42cm程度に抑えられ草姿改善効果が見られた（表-3、図-2）。

(3) 開花枝長へのわい化剤処理は、定植15日後と30日後に4,000～8,000ppmで処理することで、株の高さは40cm程度に抑えられ草姿改善効果が見られた（表-4）。

4. 成果の要約

赤系の発色は、パーライト1に対しピートモスおよびクリプトモスが各1～2の配合割合の用土で良好であり、青系の発色は、アルミニウムの含量が高い赤玉土を基本に、赤玉土の割合がピートモスおよび腐葉土の各1に対して4の配合において良好であった。開花株の高さを40cm程度にする草姿改善は、育苗時の8月下旬に最終摘心を行うか、定植15日後と30日後にわい化剤としてダミノジッド剤を4,000～8,000ppmで処理することで効果がみられる。

(担当者 花き研究室 小玉雅晴)

表-1 赤系用土と花色の関係

赤系用土 配合割合 ¹	花色 (測色値 ³)			発色 評価 ⁴
	L*	a*	b*	
1 : 1 : 1	67.0	41.2	14.5	○
1 : 2 : 1	66.9	39.8	14.7	○
2 : 2 : 1	66.4	40.0	14.3	○
2 : 1 : 1 (対照)	66.8	39.3	15.0	○
有意性 ²	ns	ns	ns	

- 注1. ピートモス : クリプトモス : パーライトの割合。
 2. 有意性の ns は有意差なし。
 3. a*値は-60(緑)~60(赤)で、大きいほど赤味が強く、b*値は-60(青)~60(黄)で、小さいほど青味が強い。
 4. 観察による発色程度で優れるものを○で示した。
 5. 施肥管理は、ピーターズ (N-P-K : 15-30-15) の1,500倍の液肥を、週2回を目安に用土表面からかん水を兼ねて施用した。

表-2 青系用土と花色の関係

青系用土 配合割合 ¹	花色 (色測値 ³)			発色 評価 ⁴
	L*	a*	b*	
4 : 1 : 1	56.2	17.8	-13.4	○
3 : 1 : 1	55.4	19.3	-11.6	△
2 : 1 : 1 (対照)	53.9	18.7	-11.1	△
有意性 ²	ns	ns	ns	

- 注1. 赤玉土 : ピートモス : 腐葉土の割合。
 2. 有意性の ns は有意差なし。
 3. a*値は-60(緑)~60(赤)で、大きいほど赤味が強く、b*値は-60(青)~60(黄)で、小さいほど青味が強い。
 4. 観察による発色程度で優れるものを○、やや赤味が強く青味が劣るものを△で示した。
 5. 施肥管理は、ピーターズライト (N-P-K : 20-10-20) の2,000倍の液肥を、週2回を目安に用土表面からかん水を兼ねて施用した。

表-3 摘心日と開花母枝長および開花株の高さ

摘心日	開花母枝長 (cm)	株の高さ (cm)
8月11日	7.4 a ²	45.7 ab
8月21日	5.4 b	44.7 b
8月31日	3.4 c	41.7 b
9月10日	2.5 c	51.0 a
有意性 ¹	**	**

- 注1. 有意性の**は1%で有意差あり。
 2. 多重比較は、Tukey法により同符号間に5%水準で有意差なし。

表-4 わい化剤処理と開花株の高さ

ダミノジッド濃度 (ppm)	株の高さ (cm)
1回目	
	無処理 45.4
	4000 42.9
	8000 43.0
2回目	
	無処理 44.9
4000	4000 40.0
	8000 42.7
8000	無処理 42.8
	4000 39.7
	8000 40.6



図-1 「きらきら星」の赤系色と青系色の発色



図-2 育苗時の摘心時期の違いと開花株の草姿
 左から摘心日が8月11日、8月21日、8月31日、9月10日